令和6年度 北区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	令和7年3月27日（木）午後2時45分から午後3時15分まで
会場	豊栄地区公民館 大講堂
出席者	<p>北区自治協議会委員：24名（欠席6名）</p> <p>教育委員：2名</p> <p>事務局：6名（教育総務課2名、学校支援課1名、北区教育支援センター3名）</p> <p>北区役所関係者：15名</p> <p>傍聴者：なし</p>
議 事	<p>1 説明 「新潟市教育振興基本計画～にいがた学びのコンパス～」について</p> <p>2 質疑応答</p> <p>3 閉会</p>
司 会 (前田会長)	<p>それでは、「新潟市教育振興基本計画～にいがた学びのコンパス～」について、よろしくお願ひします。</p>
北区教育支援センター	<p>いつもお世話になっております。北区教育支援センターでございます。毎年度自治協議会のお時間を頂きまして、教育委員会の施策についてご説明しておりますが、今年度は「新潟市教育振興基本計画～にいがた学びのコンパス～」と、加えて中学生のための地域クラブ活動についてご説明いたします。なお、お手元にアンケート用紙をお配りしておりますので、説明をお聞きになりまして、ご意見、ご質問等ございましたらご記入いただきまして、お手数ですが、受付までご提出をよろしくお願ひしたいと思います。それでは説明に入らせていただきます。</p>
教育総務課	<p>教育総務課の近藤と申します。本日は貴重なお時間を頂きまして、ありがとうございます。私のほうから、このたび新たに策定した「新潟市教育振興基本計画～にいがた学びのコンパス～」について説明させていただきます。よろしくお願ひいたします。座って説明をさせていただきます。</p> <p>はじめに、本市では平成18年に新潟市教育ビジョンを策定し、基本目標、学校教育、生涯学習、教育行政の視点からお示しし、目指す方向についても3つの視点でお示ししました。また、次代の新潟を支え、世界に羽ばたく心豊かなこどもを育み、市民が生涯を通じて学び育つ社会づくりのための教育の方向性とあり方を明確にしました。</p> <p>特に、本市教育の大きなテーマとして学・社・民の融合による人づくり、地域づくり、学校づくりを掲げ、学校と地域が協働する取組を</p>

進めてきたほか、本市の強みである農業や文化、子育てなどとも連携し、本市の特色ある教育を進めてきました。

これまでの取組の成果について、市民の皆様の声をお聞きするため、昨年度アンケートを実施させていただきました。中でも評価をいただいているのは、情報教育の充実・ICT を活用した教育の推進、保護者や地域と連携した安心安全な学校づくりの推進、地域とともにある学校づくりの推進の順となっています。一方で、取組があまり進んでいないのは、教職員への支援体制の充実、教育関連施設の整備・充実、家庭教育・子育て支援の充実という結果になりました。

同時に、こどもたちからも自由記載のアンケートを実施しました。回答につきましては、自由記載のうち出現回数が多いものほど、図に示されている言葉が大きく記されています。ご覧のように設問1「あなたが将来のために学びたいことや、挑戦したいことは何ですか」では、共通して「英語」をあげているほか、「コミュニケーション」をあげています。このようなことから、今後も児童生徒の英語力を高めることや、コミュニケーション力を高めることなどが必要であると言えます。

次に、設問2「みんなが幸せに過ごすために、あなたはどのような力を身に付けるとよいと思いますか」では、どの学年においても「思いやり」をあげています。このようなところから、今後も心の教育を大切にする必要があると言えます。

次に、設問3「現在もしくは将来、あなたが地域や社会のために貢献したいことは何ですか」では、「ボランティア」が大きくなっており、あらためて地域との絆を深め、地域への愛着や誇りを醸成することが大切であると考えています。

最後に設問4「あなたが安心して過ごすことができる学校は、どのような学校ですか」では、共通して「いじめがない」という言葉をあげています。このような結果からも、誰もが安心して過ごすことのできる学校づくりが必要であると考えています。

このように、市民の皆様やこどもたちの声なども参考としながら、このたび「新潟市教育振興基本計画～にいがた学びのコンパス～」を策定させていただきました。

それでは「新潟市教育振興基本計画～にいがた学びのコンパス～」の内容について説明いたします。まず、策定趣旨・位置付け・構成についてです。本市では、先ほど申し上げたように、平成18年に現行の新潟市教育ビジョンを策定し、さまざまな施策を展開してきました。

しかしながら、少子高齢化の加速やグローバル化のさらなる進展など、社会を取り巻く環境が大きく変化する中、これまでの成果や課題を踏まえ、このたび新たに本市の教育の方向性を示す計画を策定しま

した。計画期間は令和7年度から8年間となり、基本構想では本市の教育が目指す人間像、基本計画では基本的な方向性、実施計画では基本計画を具現化する各種事業を記しています。

全国的な動きとしては、グローバル化の進展や Society 5.0 の到来など、教育を取り巻く状況が変化しており、国では第4期教育振興基本計画を策定し、今後の教育政策に関する基本的な方針を定めました。

新たな計画において、本市の強みである、「さまざまな困難を乗り越える力」「充実した地域の力」「人材輩出の下地」などを踏まえるとともに、これまでの取組における成果や課題を踏まえ、本計画を策定しました。

具体的な課題としては、将来の夢や目標をもつこどもの割合が減少するほか、生涯学習ボランティアの高齢化や固定化、不登校児童生徒の増加などがあげられ、教育にかかわる課題が多様化・複雑化しています。そのような中、「生まれてから一生涯を見通した幅広い視点で新潟市民の生活が心身ともに豊かになる教育」「誰一人取り残さない、一人一人の可能性を引き出す教育」をコンセプトに、本市の教育が目指す人間像を、「しなやかに 世界と未来を 創る人」と設定しました。

なお、「しなやか」の言葉は、粘り強さ、たくましさという意味も含んでいると考えています。「世界」にはグローバルな世界のほか、自分がかかわる身近な地域社会も表しています。既成概念にとらわれず、主体性と挑戦する気概をもち、新たな価値を創造しながら、しなやかに世界や未来を創り出していく新潟市民であってほしいという願いを込めています。

そして、本市の教育が目指す人間像の実現に向け、4つの基本方針の下、14の基本施策を定め、総合的・体系的に進めていきたいと考えています。

基本方針Ⅰ「生涯を通じて学び、夢や希望に向かって挑戦し続ける人づくり」では、これからの時代、年齢を問わず学び続け、夢や希望に向かって挑戦し続けること、生涯学習を通じて自らを高めることが大切であり、教養を高めることや健康に関心をもつことなどがウェルビーイングの向上につながります。

基本施策1では、多様な学習機会の提供、循環型生涯学習の推進に一層力を入れるとともに、基本施策2では、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取組を進めていきます。基本施策3では、こどもたちが夢や希望に向かって挑戦し続ける取組を進めるほか、基本施策4では、自らの健康に関心をもち、主体的な健康づくりができるよう支援します。

少し具体的な内容について補足させていただきます。例えば、基本

施策1では、生涯学習ボランティア育成事業などを実施し、市民が生涯を通して学習した成果を、人づくりや地域づくりにいかす循環型生涯学習を推進していきます。

また、基本施策2では、こども一人一人の確かな学力を育成するために、教育活動を充実させるとともに、本市の特色であるアグリスタディプログラムに基づく体験学習を通して、学力の育成にも力を入れていきます。

次に基本方針Ⅱ「豊かな人間性と高い志をもち、協働しながら新たな価値を創造する人づくり」では、市民一人一人がお互いを尊重し、認め合い、多様性のある社会を実現していくことが重要であり、豊かな人間性と高い志、協働による新たな価値の創造は、持続可能な社会の維持・発展につながります。

基本施策5では、さまざまな違いを認め合い、共生する社会の実現を目指すほか、誰もが安心して過ごせる学校づくりを進めるとともに、基本施策6では、多様な教育的ニーズに応じた教育環境の整備を進めるほか、自分らしく学び成長する特別支援教育を推進します。基本施策7では、歴史や文化などへの理解を深め、諸外国の人々と互いの文化などを理解し合い信頼関係を築くとともに、基本施策8では、自信と誇りをもって生きることができる教育を進めます。

例えば基本施策6では、不登校・不登校傾向対策事業など、多様な児童生徒の学びを保障するための居場所づくりや、安心して過ごすための環境づくりを進めます。

また基本施策7では、国際交流推進事業など、日本や諸外国の歴史や文化などに対する理解を深め、諸外国の人々と互いに信頼関係を築けるような教育を推進します。

次に基本方針Ⅲ「地域との絆を深め、郷土に誇りと愛着をもって社会に貢献する人づくり」では、地域課題の解決につながる実践的な学びなどを通して、郷土への誇りや貢献意欲を醸成していきます。

基本施策9では、ネットワークづくりにより社会の変化に応じた教育活動を改善するほか、豊かな体験活動や多様な学習機会を提供するとともに、基本施策10では、本市の特徴である農業をはじめ、歴史や文化などの本市の魅力に気付き、ふるさとへの誇りを培う取組を進めます。基本施策11では、子育て中の保護者も安心して学べる機会などを提供するほか、悩みを共有できる仲間づくりなどの取組を進めます。

例えば、基本施策9では、地域とともにある学校づくり推進事業を実施し、学校と地域が連携して、こどもの学びと成長を支えています。

また、基本施策11では、ブックスタート事業など、乳幼児期からの家庭での読書習慣を形成するために、図書館と保育施設などが連携

し、発達段階に応じた効果的な取組を進めます。

最後に、基本方針Ⅳ「多様な学びを支える教育環境の整備・充実」では、安心して学びに向かうことができる教育環境を整備するほか、教育関係職員が専門性を高め、その力を発揮できる体制を整備、支援します。

基本施策 12 では、教育機会の確保に努めるほか、中学生が継続してスポーツ活動などに親しめる環境整備を進めるとともに、基本施策 13 では、こどもたちが学びのコミュニケーションツールとして ICT 機器を活用できるよう、指針等の作成や必要な環境を整えていきます。基本施策 14 では、すべての教職員がいきいきとこどもたちと向き合うため、学校や地域などが一体となって働き方改革を推進します。

例えば、基本施策 13 では、教育 DX 環境整備事業などを実施し、児童生徒が学びのコミュニケーションツールとして ICT 機器を活用できるよう、環境の整備や教職員研修を充実させていきます。

また、基本施策 14 では、多忙化解消対策の推進など、市民に信頼される教職員を育成するとともに、教職員がいきいきとこどもたちと向き合うため、保護者や地域が一体となって教職員の働き方改革を推進します。

以上が、新潟市教育振興基本計画の主な概要となります。この計画を本市の「学びのコンパス」とし、教育を通じて市民の皆様が豊かで幸せな人生が送れる社会を目指し、各種事業を展開していきたいと考えています。以上でございます。ご静聴ありがとうございました。

司 会 ありがとうございます。次に、お願いします。

学校支援課 学校支援課の藤田と申します。私からは、「中学生のための地域クラブ活動推進方針」についてご説明いたします。着座にて失礼いたします。

お手元の資料をご覧ください。この推進方針は、将来にわたりこどもたちがスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会の確保に向けた、本市における基本的な方針とスケジュールなどについてまとめています。時間の都合がありますので、特にというところのみ説明させていただきます。

それでは、2 ページから 4 ページには、策定の背景が記載されています。後ほどご覧いただきたいです。

5 ページ以降は、具体的な取り組みを記載しました。6 ページ(3) 実施主体をご覧ください。タブレット端末やスマートフォンからクラブを検索できる団体リストには、現時点で約 150 クラブの情報が掲載されています。部活動に設置されていた活動だけでなく、多様

なクラブの情報が掲載されています。地域クラブ活動の体験会については、来年度も主に小学生・中学生とその保護者を対象として、各区での開催を予定しています。今年度は、出展するクラブの種目数や、来場される方の人数にばらつきがあるといった課題もありましたので、周知方法を工夫したり、内容の充実を図ったりして、さらに有意義な体験会となるよう準備を進めていきます。

(4) 指導者について。指導者リストは新潟県とも連携しています。現在の登録者数は、新潟市と新潟県のリストを合わせると55名です。指導者リストを見たクラブから問い合わせがあり、紹介したところ、マッチングが図られた例もありました。

7ページをご覧ください。(5) 活動場所についてです。地域クラブが中学校施設を利用できるようにするため、市内すべての中学校の職員玄関、体育館玄関、武道場入り口に、地域クラブ活動用のキーボックスを設置しました。平日17時から19時、休日9時から19時まで、地域クラブが中学校施設を利用できるよう準備を進めています。

(6) 地域クラブの設立支援についてです。今年度より円滑なクラブ設立のため、市独自の補助金制度を創設しました。これまで多くのクラブから申請があり、補助金を交付しています。クラブからは、指導者謝金に対する支援はありがたい。補助金があることでクラブを立ち上げやすいという声がありました。来年度も同様の補助を行います。

8ページ、9ページには、生徒・地域・学校にとって期待される効果をまとめました。

最後10ページには、大まかなスケジュールが記載されています。

この推進方針には記載していませんが、来年度、コーディネーターを学校支援課内に配置し、クラブの設立、また子どもへの支援を充実させていきます。現在、スポーツ庁・文化庁では有識者会議をしており、まもなく最終取りまとめが示される予定です。国の動向も注視しながら、この推進方針については随時見直していきます。説明は以上です。

北区産業振興課

続きまして、北区産業振興課の方から報告資料2-3というのがあるかと思いますが、こちらのほうで若干北区の状況を説明させていただきたいと思います。

今ほど教育委員会のほうから説明あったのが部活動地域移行、本当のベーシックなところになるかと思いますが。新潟市の全体のところ。北区はそこで、弱み強みを考えながら、北区バージョンでカスタマイズをさせて、今運用させてもらっております。

北区の弱みって何だかという、4つの学校大きいです。その学

校だけで部活動できそうですけれども、あとの4つの学校は小さくて、部活動の運営がなかなかできない。ですので、大きなところで固まっちゃうと小さいところが弾かれるので、そういうことをつくりたくないような形でやっつけていこうと。

あと北区の強み、何といたっても新潟医療福祉大学があることです。この学生があることと、敷地あって、今新潟医療福祉大学の西原副学長全面協力を頂いて、これは国の委員やって、県と市の座長をしている方の全面的バックアップで「こうやりなさい」ということで基づいてやっております。できたのが「北区中学校のための地域クラブ活動推進協議会」という形で、ハピスカとよさかさんのところをマネジメントという形で中心にしまして、新潟市開発公社、それから中学校校長会などで協議会をつくりました。それで今年度、野球とソフトテニスと卓球をモデル的に試験運用しまして、今月状況を確認したんですけれども、運営っていう、真ん中に書いてあります、ここに書かれている競技の受け入れ団体が設立になりました。このほかに、ラグビー、柔道、空手、陸上、それから野球は軟式・硬式という形で、今までの中学校の部活よりも、かなり広い分野の競技ができるようになったというふうな形になっています。

これは各競技団体、まずは1カ所でモデル的に運用しております、来年度希望者が増えてきた、どうしようかという形で、今まで葛塚でやっていたところが松浜でやる。それから卓球なんかは競技別でやるという形で、かなりバリエーション増えてきて、来年度はもっと具体的なことになるかなと。

それからまた指導者、やっぱり先生が今まで教えてたのは、教育の面から地域がやるって形で、そこの部分が抜けてきます。ですからそこの弱みというところ。それから弱みというのはどうしようもないんですけども、医療福祉大学のほうから今まで学校の部活動で弱かったトレーニング、けがをしない運動の仕方、そういったところを強力に地域クラブ活動としての利点を出していこうという方向で、令和7年度やっていくという形になっております。

これ運動部ですけれども、吹奏楽のほうも3月で体験会をやりました、今これは北区文化会館のところをメインにやっていますけれども、文化会館の館長さん、文化会館をジュニアの拠点にするって今意気込んでますので、そこから北区はどんどん行けるかなというふうに思っております。

それから、今まで部活動ですと、どうしても運動できる子・できない子って取り残しがあるかと思うんですけれども、来年度試的にエンジョイスポーツという形で、ちょっと運動は苦手だけでも何か動いてみたいっていうところを2～3校モデル的にやって、幅広いところ

を取り組んでいこうというふうな形でやっておりますので、私ども北区、今県内でもトップクラスのほうまでいったかなというふうなところで思っています。せっかく医療福祉大学があるので、ぜひともトップに立って、新潟市のモデル的な標準をつくっていききたいなというふうに思っておりますので、ぜひともご協力をお願いいたします。

司 会 ありがとうございます。今の説明について、何かご質問とご意見等ございますか。

自治協委員
(佐久間委員)

ご説明ありがとうございます。藤田さんには PTA のほうでもご説明いただいて、どうもありがとうございます。北区オリジナルということで、すごく熱い思いが聞けてよかったです。受け皿のほうは、もう何か全国をめざし完璧だななんて思うんですけども、保護者として気になっているところ、聞こえてくる声というのは、とにかく移動手段なんですね。公共交通機関がやっぱり区内すごく少ないので、私はもう木崎に住んでいるので、木崎から豊栄駅行くまで、もう送り迎えしかないという、車での送迎しかないというところがあります。ほかの地域もそうかなと思うんですけども、そこだけが本当に心配で、公共交通機関があれば乗れるんですけども、ないので、何とかそこを確保してほしいなという思いがあるので、お願いしたいです。意見としても、医療福祉のバスに乗せてもらったらなんていうのは聞こえてくるんですけども、でもあれは学生さんが学費を払って出してるバスだと思うので、とにかく公共交通機関なり、そういう区バスなりをもうちょっと充実してくだされば、もっとこれからクラブチームに入りたい子が増えてくるのではないかなと思うんですけども、現状どこまで話が進んでいるのかというのをお聞かせ願いたいです。

司 会 はい。じゃあ、北区のほうから。

北区産業振
興課

北区、交通の面、確かに一番の難題で最初から出てました。今も解決していないんですけども、まず医療福祉大学、これは大学に行く人誰でも乗っていいそうです。ですので、部活動とか、今回陸上の面で非常にバックアップしていただいているんですけども、陸上やる時には医療福祉大学のバス乗ってきてくださいと。学食も食べに来てくださいというふうに言っていましたんで、皆さんどんどん行きましよう。

今、モデル的に各学校やっておりますけども、いろんな競技が各学校のところでできるようになれば、あんまり負荷にならないかなというふうな形で思ってますし、北区はうちの課のところで今課外活動、

学校開放の業務もやらさせていただいています。それを逆手にとりまして、部活動地域移行をやっているところ、優先的に配置してしますので、部活動地域移行をやるところがいろんな学校に行くようになるといいなというような思いを持っています。

もう1点、どうしても移動が大変だなというのは、これはかなうかどうかちょっとあれなんですけども、ふと見たら、小学校のスクールバスが夕方回ってるんですね。あれに帰り乗せてもらって拠点に来れば、夜親御さんがそのところに迎えに行けるということができたらいいなってところは、ちょっと教育委員会さん、いるかどうかわかりませんが、何か思いは持っています。

自治協委員
(佐久間委員)

ぜひ実現させてほしいと思います。私も中学生の娘がちょっと、部活じゃないな、クラブチームに入ってるんですけど、とにかく送迎が大変で、送迎ができないゆえに休ませたりとか、あとはネットワーク、コミュニケーションだと思うんですけど、ほかのお母さんに頼んでとか、そういうことさせてもらってるんですけど、とにかく聞こえてくる声は送迎なので、ぜひ頑張ってください。よろしくお願いします。

司 会

川島さん。

自治協委員
(川島委員)

教育に関してですけれども、質問というよりも意見を言いたいと思います。まず英語なんですけれども、英語はアンケートでトップのほうになってるわけですね。学びたいと。私たちは、私というか、75歳なんですけれども、私たちが習った当時の英語というのは、いわゆる文法中心にやってるわけです。ということは、昔の英語教育というのは、英文学者になるような教育だったわけですね。したがって、英語の先生も、日本語的な英語で教えてくれる。私たちは大きく年取ってくると、今度会話をするわけなんですけれども、全然聞き取れない、話せない。こういう教育を私たちは受けてきたというふうに思っております。私も何十年も英語をやってるんですけども、いまだかつてうまく相手に伝えられない。あるいは聞き取れないというのが現状だと思います。

したがって、英語教育に関してはやっぱり方向性を、いわゆるコンパスなんですけれども、どういうふうな英語、話せるような英会話を中心なのか、あるいは英文学者になるような教育をやろうとしているのか、はっきりさせていただいたほうがいいんじゃないかというふうに思っております。意見です。

もう1つだけ意見させてください。これもまたアンケートを見ます

と、残念なことに、小学生は算数というのが入ってきましたけれども、ほかの上層、高校中学へ行くと、算数とか科学とかっていうの、ケミカルじゃなくてサイエンスですけども、そういうのが入ってこない。私はやはり日本というのは技術立国、技術で発展していくというのが私は基本だと思ってるんですけど、技術者ですからね。それで、すべての教育、例えば算数でも、われわれは考える力をやってるわけです。考える力なんです。というのは、私たちが生活してるときに、いろんな問題が出てきます。地域のいろいろな問題が出てきますけれども、それを解決するのは考える力なわけです。考える力がなければ解決できないわけです。これをやはり教育の基本にしてやっていきたい。私たちは算数習う、あるいは数学習うのも技術習うのも、これはそういう考える力ってことをやるということでありまして。したがってそれを中心にぜひ考えてやって、コンパス、基本計画で具体的にさせていただきたいなというふうに思います。以上です。

司 会 ありがとうございます。今の点。

教育総務課 ご意見ありがとうございます。貴重な意見として受け止めさせていただきます。ただ、国も本市もこのにいがた学びのコンパスにも、やはり子どもが考えるということは中心に置いていますし、英語は文法も大切ですけども、やはり会話を中心として、まず諸外国の方の文化に興味をもつというところにも視点を置いて、その発達段階に応じて教育が展開していくようになっておりますので、そののところをしっかりと見届けていただければと考えております。

司 会 じゃあ、先ほど、佐久間委員のほうから移動の手段の件でご質問があったんですけど、教育委員会のほうからご回答が。

学校支援課 ご質問ありがとうございました。先ほどの産業振興課の回答と重なる部分もあるのですが、移動をお家の方から手伝ってもらわなくても、子どもたち、自分で通える範囲でたくさんのクラブが選択できるように、まずはクラブの数を、種類を増やしていきたいなと思っております。

先ほどスクールバスということもあったのですが、こちらの推進方針の7ページ、(6) 地域クラブの設立支援のところの下ですね、「活動場所への移動や会費などについては自己負担を基本とし」というふうに、現時点では自己負担と考えております。自己負担を基本として考えてはいるんですが、他都市の取り組み状況であったり、国の有識者のこれから出る報告を参考にしながら、また考えさせてください。

	<p>お願いします。</p>
司 会	<p>はい、ありがとうございました。佐久間さん、これでよろしいですか。はい、ありがとうございました。それでは、ほかに何か。</p>
自治協委員 (清水委員)	<p>すみません。ちょっとお聞きしたいんですけども、この中学校を含めて部活動を地域に発展させていくという視点の中で、特に地域の指導者の育成というのが、私は大きな課題になってくるんじゃないかというふうに思っているんですよ。そういう点で、どのような方針を示しているのか、その辺聞かせていただきたいと。</p>
学校支援課	<p>ご質問ありがとうございました。指導者の育成ということなんですが、指導者リストというものを整備して、そこにさまざまな競技であったり活動、指導ができるよという方を登録して、指導が困っているクラブに紹介するような取り組みを行っています。部活動ですと、今まで教員が指導者、顧問として指導者を行っておりました。地域の方や保護者の方からの話を聞かせていただくと、教員がかかわっているので、その点ではとても安心だということです。今後地域でということになると、その競技または活動の専門家というんでしょうか、そういった専門的な指導が受けられるという良さがあるものの、今まで教員がかかわっていたその部分が、ちょっと心配だなという声も聞こえてきています。</p> <p>先ほどの医療福祉大学の西原副学長とも連携をさせていただいて、指導者としてかかわる方々に研修を受けていただいております。オンデマンド、インターネットでつないで見られるような研修を3つ準備しました。1つ目はハラスメントやコンプライアンス、2つ目は指導者としての役割や心構え、3つ目、ここ大事なかなと思っているんですが、対象が中学生ですので、中学生との向き合い方という研修を受けていただいております。</p>
自治協委員 (清水委員)	<p>その考え方というのは私も聞いているんですけども、地域の皆さんが、積極的にそういう指導者という立場でかかわりを持とうという人が少ないという話をよく聞くんですけど、その辺のところ進んでいるようなところってあるんですか。</p>
北区産業振 興課	<p>じゃあそちら、北区の方から説明させていただきまして、最初に指導者のリスト、これいくとなかなか手を上げる人いないので、まずは競技団体、ジュニアとかやってる人の指導者、技術を教えるところか</p>

ら入っていきました。で、クラブ活動やってきて、先ほども言いましたように、やっぱり指導者、学校の先生と違うところは、普通の民間の地域の人できないので、これは来年度、医療福祉大学、先ほど言いました西原副学長、「うち活用してください」という形でしたので、そういうような指導者の研修というのを来年度やっていこうと。また、この自治会の前メンバーだった佐藤先生いたかと思うんですけども、あの先生が理学療法士の先生でして、けがをしないようなそういうようなものもちょっとトレーニングやってみたい、トレーニングとか、講演会やってみたいんだという形ですので、いろんなものをちょっと北区で試してみたいなというふうに思っておりますので、いろんな意見、来年動いていくかと思っておりますので、見守っていただいたり、またご助言いただければというふうに思っております。

司 会 この問題いろいろありますのでね。ほかに、特にありますか。じゃあないのであれば、皆さん大変ありがとうございました。